

基本計画書

印南町防災福祉拠点整備事業

印南町防災福祉センター基本計画書



令和3年3月

はじめに

この度、防災の拠点と福祉の拠点を併せ持つ複合的な施設を計画することとなりましたが、このコラボレーションはまったく相性の良い取り合わせであると思います。

防災施設は普段、防災教育や訓練、セミナーにしか使わないため、福祉や保健・町民の交流の場として幅広い層の人々に馴染んでもらうことこそが、防災施設としていざというときに生きてくるものです。

この施設の立地は災害対策本部である町庁舎の隣接地に位置し、本部とのタイムラグや過不足の無い緊密な連携を実現することが可能です。また、この施設の運営主体は災害時には本部組織に於ける「班」に相当する重大な役割を担うため、相応の機能に特化した施設である必要があります。

これらのことから、平時は「福祉の拠点」、災害時には災害ボランティアセンターとしての機能に特化した「防災の拠点」として、2つの顔を併せ持つ施設として計画するものであります。

計画の方向性はコラボの融合を図るため、「防災の拠点」として重々しく構えるのではなく、普段は気軽に来館して戴けるよう「福祉の拠点」を前面に出し、町民の皆様に馴染んで戴ける施設を目指します。

***** 目 次 *****

1	福祉行政を取り巻く背景と現状	-----	1
2	時代と地域が求めるもの	-----	3
3	基本方針	-----	4
	3.1 コンセプト	-----	4
	3.2 この施設の役割と提供サービス	-----	4
	3.3 上位計画との整合性	-----	5
4	規模及び諸元の決定	-----	5
5	各部門の要望	-----	6
6	用途所要室マトリックス	-----	9
7	配置図	-----	11
8	平面図	-----	12
9	完成イメージ図	-----	13
10	事業スケジュール	-----	14
11	設計時の検討事項	-----	15

1 福祉行政を取り巻く背景と現状

我が国に於ける日本国憲法下での福祉行政の変遷は、昭和22年の児童福祉法公布をはじめ、昭和24年に身体障害者福祉法、昭和38年に老人福祉法などが次々と公布され、長い措置の時代が続いた。そんな中、二度のオイルショックを経験し、バブル絶頂期の昭和58年には我が国の平均寿命が男女とも世界一となり、手探りで先頭を走ることとなった。

人権重視の観点から昭和60年に「男女雇用機会均等法」が公布され、戦後復興の担い手として活躍されたお年寄りを篤くもてなす観点から、平成元年に「ゴールドプラン」が策定された。内容としては特別養護老人ホーム整備、ホームヘルパー・デイサービス・ショートステイの整備による在宅福祉対策などを進めるとされた。

その後、平成6年には全国の高齢化率が14%を超え、高齢社会へ突入した。この年、在宅介護強化の数値目標を掲げた「新ゴールドプラン」が策定された。

平成6年には「介護保険法」が成立し、平成12年（西暦2000年）からは措置の時代からサービスの時代へと移り変わった。

この間、エンゼルプラン、ゴールドプラン改訂の変遷の後、平成15年に「少子化社会対策基本法」を公布し、少子高齢化解決への期待を掛けると共に、平成17年に「身体障害者雇用促進法」を改正して、ノーマライゼーションの枠組みを広げた。

平成19年には高齢人口が21%を超え、超高齢社会の到来を迎えた。

翌、平成20年には後期高齢者医療制度（長寿医療制度）が開始された。

1947	(昭和22)	児童福祉法公布	第1回共同募金運動実施
1949	(昭和24)	身体障害者福祉法公布	
1951	(昭和26)	社会福祉事業法公布	
		中央社会福祉協議会結成	
	(昭和27)	身体障害者福祉法	
1963	(昭和38)	「老人福祉法」公布	
		市町村社協の法制化の全国取り組み強化	
1979	(昭和54)	第2次オイルショック	『在宅福祉サービスの戦略』発表
1980	(昭和55)	第1回社会福祉協議会全国大会開催	
1981	(昭和56)	国際障害者年	
1983	(昭和58)	平均寿命、男女とも世界一となる	
1985	(昭和60)	男女雇用機会均等法公布	
1989	(平成元)	ゴールドプラン策定	
1994	(平成6)	エンゼルプラン策定	
		新ゴールドプラン策定	
		高齢人口14%超（高齢社会）	
1997	(平成9)	「介護保険法」成立	
1999	(平成11)	新エンゼルプラン策定	
		ゴールドプラン21策定	
2000	(平成12)	介護保険制度施行	
2003	(平成15)	「少子化社会対策基本法」公布	
2005	(平成17)	「身体障害者雇用促進法」改正	
2007	(平成19)	高齢人口21%超（超高齢社会の到来）	
2008	(平成20)	後期高齢者医療制度（長寿医療制度）開始	
		全社協設立100周年（感謝の集いの開催）	

また、我が町に於ける福祉行政の現状は、住民福祉課内の担当セクションに割り振られ、本事業に関わるセクションのみを抜粋しても、「地域包括支援センター」や「各種相談」「高齢者福祉」「障害者福祉」「健康福祉(保健センター)」など多岐にわたる。それらの直接的ケアの多くは社会福祉協議会や高齢者福祉施設への民間委託となっている。担当セクションが直接事業を展開しているのが保健センターであるが、なかでも「各種健診」「各種教室・相談」などは社教センターを利用した大きなイベントである。

一方、福祉事業の主たる担い手であり、実行部隊として活躍する「印南町社会福祉協議会」は、昭和45年に社会福祉法人格を取得し、旧町役場の敷地内にて発足した。平成2年には公民館横に建設された「社会福祉センター」を本拠として事務所を構えたが当時、周辺市町村の福祉センターと比べると規模は小さく、デイサービスは「ときわ寮梅の里」など近隣町村の施設に依存していた。

平成12年、町内に高齢者複合施設の「カルフル・ド・ルポ印南」が開設されるや連携を深め、在宅福祉の方向性を一層鮮明に打ち出し活動してきた。

現在の「印南町社会福祉協議会」実施事業

高齢者・障害者向け事業

福祉用具貸出

緊急通報装置貸出

福祉車両貸出事業

高齢者向け事業

介護保険サービス

ケアプラン作成

訪問介護

訪問入浴介護

高齢者等安否確認事業

生活管理指導員派遣事業

基幹型在宅介護支援センター

生きがいと健康づくり推進事業

障害者向け事業

居宅介護(障害者総合支援法)

障害者緊急時相談支援事業(あんしんコール)

地域福祉

介護教室

心配ごと相談所

霊柩車貸出

2 時代と地域が求めるもの

地方創生・人口減少克服という構造的課題を抱えながら策定した第5次長期総合計画では、その一環としておこなった平成27年のアンケートで、理想のまちづくりでは「高齢者や障害者が安心して快適に過ごせる町」、「みんなが健康で元気に暮らせる町」。重点的に行ってほしい施策では「子育てのしやすい環境整備と定住の促進」、「高齢者福祉の充実」が1・2位に挙げられ、何れも「子育て」「高齢者や障害者」の福祉に注目が集まっている。

これを受けて「まちづくりの基本方針」では「思いやりと安らぎのある健康・福祉の郷」と題し、

- 第1章 第1節 健康づくりの推進
- 第2節 生きがいと思いやりの社会福祉
- 第3章 第3節 安全に暮らせる生活環境の整備
(防災・危機管理対策の充実)

と列記されている。

従って、本整備事業ではつぎのサービスが求められる。

- 1 防災拠点・被災時ボランティアセンター
- 2 「印南町社会福祉協議会」実施事業
- 3 健康福祉(保健センター)事業
- 4 各種団体・世代・サークル交流等重層的連携の推進(サロン)
- 5 各種団体・ボランティア活動拠点
- 6 被災時一時避難施設

3 基本方針

3.1 コンセプト

本事業は多岐にわたる福祉施策の中にあって、散逸しがちな福祉行政システムを一元的に集約し、更に防災の拠点として位置づけた複合的な施設を整備するものです。そこには国で進めている「地域共生社会」の推進と、国際的に進められている「SDGs=誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」を包含し、「住民とともに築く、希望あふれる郷」の実現を後押しします。

そして、これまで長年にわたり積み重ねられた地域固有の資源を継承し発展させるとともに、常に持続性を尊重したアップデートを重ね、住民・事業者・関係団体・行政がそれぞれに果たすべき責任と役割を分担しながら、相互に補完・協力していく

「重層的連携による健康・福祉、子育てなどのまちづくり広場」と共に、防災ビジョンに掲げた「住民の安全・安心なくしてすべての福祉はない」を基本理念と致します。

3.2 この施設の役割と提供サービス

1 防災拠点・被災時ボランティアセンター

被災時ボランティアセンターとしての機能を十分に発揮し得るPlan
平時は多目的会議室や休憩室、健診等に効率よく活用する
大勢のボランティアが効率よく活動に参加できる外部空間を整える

2 「印南町社会福祉協議会」が従来実施してきた事業に加え

今後、急激に進展するとみられるDX環境に適応し得る空間を確保する
具体的には、余裕のある事務スペース・通信インフラ環境等

3 健康福祉(保健センター)事業

情報提供
幼児健診(歯科含む) 20人前後 月1回
母親教室(沐浴含む)
ママサポサロン
健康増進、予防教室
栄養指導
相談事業
大人健診 max200人 年5~6回

4 各種団体・世代・サークル交流等重層的連携の推進(サロン)

1階には、幅広い層の交流拠点を目的としたラウンジを設ける
2階には、サークル活動交流等重層的連携を目的としたサロンを設ける
交流スペースの1階と2階は一体感を創出する

5 各種団体・ボランティア活動拠点

定期・不定期な会議・会合に対応出来る室を設ける
平時ボランティアの研修会や活動拠点に対応出来る室を設ける

6 被災時一時避難施設

3.3 上位計画との整合性

「希望をもてる5つのまちづくり」とのリンク

- 住みたい・住み続けたい ---- 穏やかな町民性と豊かな自然を有す
- 子育て・教育の充実 ----- 保健センターの一層の活躍を期待
- 強じて安全・安心 ----- 防災・被災時の活動拠点として存在感を示す
- 思いやりとやすらぎ ----- 重層的交流等の推進（ラウンジ・サロン）
- 地場産業が輝きにぎわう ---- 重層的交流等の推進（ラウンジ）

4 規模及び諸元の決定

本体	構造	鉄骨造 2階建て	耐震構造
	延面積	1,260 m ² 程度	
別棟 倉庫	構造	鉄骨造 2階建て	耐震構造
	延面積	300 m ² 程度	
繋ぎ大屋根	構造	鉄骨造	
別棟 作業棟	適宜		

耐震安全性	構造体 類	非構造部材 A類	設備 甲類 (特殊なものを除く)
-------	----------	-------------	----------------------------

ライフライン

電力	商用電源	関西電力	
	非常用電源	自家発電機	60%程度 ガス発電も検討
	ソーラー発電	10Kw発電、15Kw蓄電	自家消費

冷暖房設備	GHPで検討
	事務所の独立性確保
	事務室・ラウンジは床暖（電気）

給水	上水道	中水・井水利用は無
----	-----	-----------

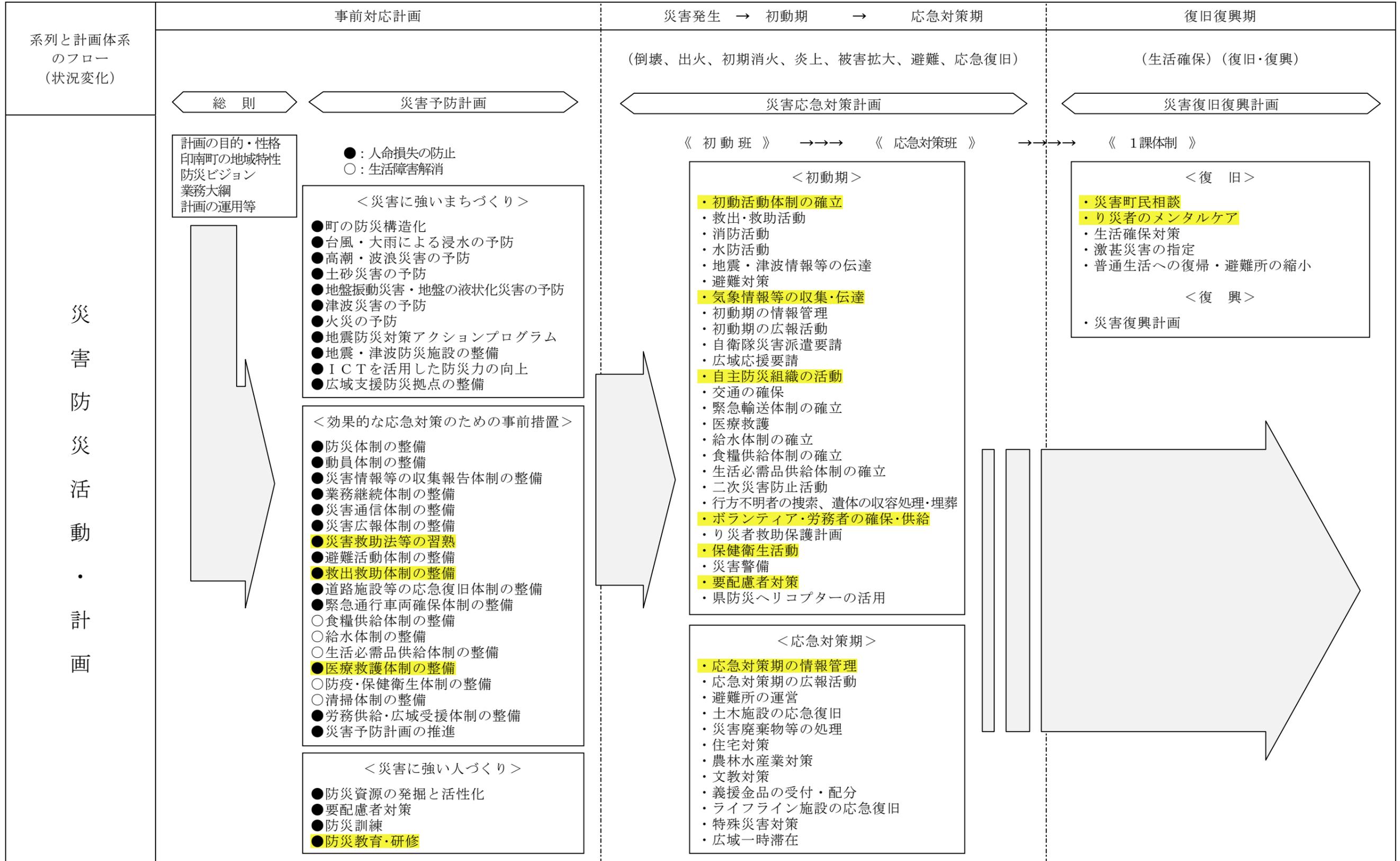
防火水槽の容量	40 t	周辺施設も対象とする
---------	------	------------

水量確保算定用の人員数

全職員数n1	25名	
災害応急活動を行う職員数n2	8名	
応援職員滞在人数	5～6名	
大地震後職員が施設を離れる迄の日数t1	3日分	それ以上になれば
大地震後外部から供給が可能な迄の日数t2	3日分	給水車で運搬
避難者人数および滞在日数	20名 1日	

5. 各部門の要望

【災害防災活動の時系列構成】



印南町福祉センター建設事業検討委員会 各分科会

社会福祉協議会

【相談室】

- ・小さく 相談者が吐き出せる場所に。「ここなら大丈夫」と思えるように。プライバシーに配慮。

【会議室】

- ・公民館大ホールのように 200 人程度収容できるもの

【駐車場】

【さしかけの屋根】

- ・ボランティアセンターとして使う際に集合場所として。ただし隣接した事務所も必要。
- ・現在の総務課倉庫（書庫棟 1 階）のようなものも良い。

【シャワー室・更衣室】

ボランティア用、非常用、他にも多用途。避難所として使用中の介護、子供の面倒見などに。

【倉庫】

福祉用具の収納 ベッド 200 台 車いす 130 台。
現在旧教育庁舎と付近の物置に保管しているが手狭である。

【事務室】

ワンフロアが良い。役場みたいなものを。今の事務所は狭い。

【その他】

福祉用具の展示スペース
ゴミストッカー
入浴介護のため洗濯の場所
手袋・紙おむつ等の保管場所

事業について

シニア学園…現在 8 つのサークルがあり、分散して活動。

ヘルパー全 25 人 シフト制で 10 人稼働

新しいサービスについて

成年後見制度
デイサービス…できない
障害児デイサービス…将来的にはあるかもしれないがわからない。
生活支援コーディネータ 集まることはあるか？

貸し館事業が多くなっている。

住民が主体的に使えるスペースが欲しい。サロンのなもの。

防災

ボランティアセンターについて

- ・本部は屋内、外でも事務ができるように
- ・和歌山だったら 1 日 100~200 人程度来てくれる。
- ・炊き出しは役場敷地でもできる。
- ・ボランティアの基本は自己完結。
- ・宿泊に困る場合はビジネスホテルを町が押さえたり、若者広場のようなところに寝袋やテントを広げるヤードを設ける。
- ・入浴は地元のデイサービスセンターや旅館と協定を結ぶ。

避難所として

- ・メインの避難所にはできない。
- ・とりあえず避難に来てしまった人の一時待機場所として受ける。

倉庫として

- ・旧稲原保育園に備蓄している資機材（スコップ等）の保管場所に困っている。
- ・間仕切り段ボールの置き場に困っている。今は印南土地改良区の倉庫を間借りして保管している。
- 持ってこれるほどの倉庫を作るとなると過大になるので×。

防火水槽

- ・付近の防火水槽は役場敷地のもののみである。こども園・カルフルドルポにはそれぞれ近くに消火栓を設けているが、1 基設けるべきか。

団体

老人クラブ連合会

- 老人クラブだけの倉庫が欲しい。
車が横付けできるもの。グラウンドゴルフ、ベタンク、吹き矢の道具を収めるため。現状は体育館横にもあるが車が近づけずベタンク用具の運搬が大変である。
- サロンが欲しい
例えば本庁で会議をした後、仲間でコーヒーを飲みながら一休みしたいと思っても喫茶店が町内にはない。なるべく広く、くつろげる場が欲しい。高齢者の外出のきっかけづくりになると思う。子育て世代など、他の世代との交流の場として期待できる。
- 和室
最近、在宅マッサージ施術所があり、場所を指定すればどこにでも来てくれて施術を受けられるのでその利用の場にできないか。
- 会議室
多くの人を収容できる場所は欲しい。ステージも欲しい。発表会、講演などにも使えると思う。
- カラオケができる場が欲しい。
現在、切目社教センターをよく使っているがやや狭い。
- 集まる場はなるべく1階に配置してほしい。
- その他
こうして意見を聴いてくれる場は今までなかったので、非常にうれしく思っている。できれば同様の施設が他所にあれば視察してみたい。

身体障害者福祉連盟

- 車いすを使う者としては、段のある座敷が欲しい。バリアフリーのために低くされがちだが、車いすを使う場合はそれに合わせて高い位置にある方が使いやすい。たとえ2~3畳でもいいので、作ってくれれば非常時に避難した際、気軽に横になれるので非常にありがたいと思う。
- トイレは洋式が絶対必要である。和式は車いす、視覚障害者に非常に使いづらい。
- 障害者が通りやすい通路、杖が引っ掛からないように。
- 耳が聞こえなくてもわかるような表示を。ディスプレイ。デジタルサイネージ。非常時にも機能するものを。聴覚障害者には非常時の情報収集が非常に困難である。手話ができる者が周りにいないため。理想は手話通訳者の常駐だが現実的でないのも理解しているが、情報のバリアフリーを。せっかく手話条例があるので、

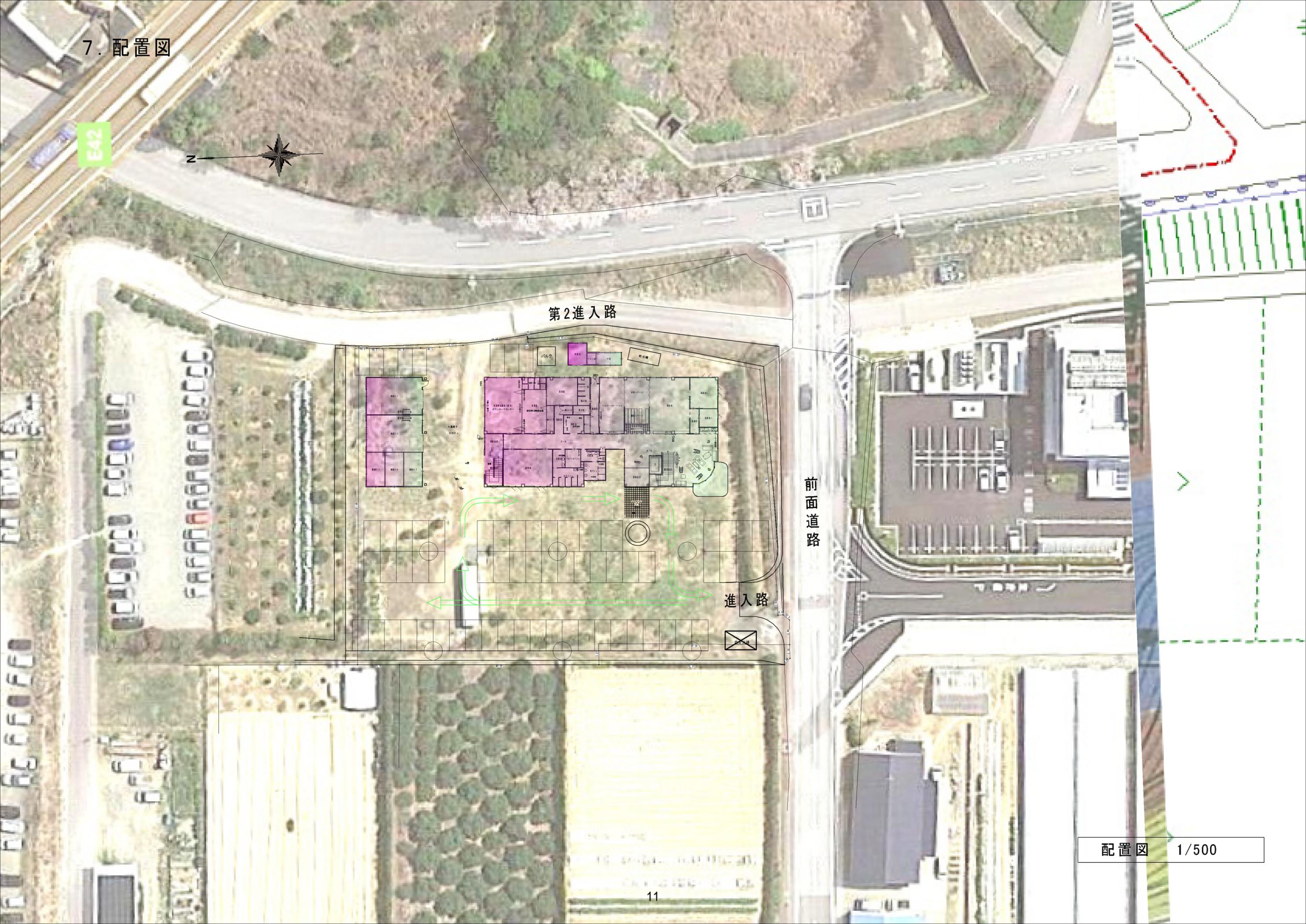
手話を使ってほしい。また、最近は手話通訳の遠隔利用サービスがある。これを利用できる環境でもいい。

- シャワーでなくてお風呂があるといい。高齢者、障害者はシャワーが難しいことが多い。
- 災害時に障害者が避難する場所として、居心地のいい落ち着く場所にしてほしい。人の介助がなくても移動ができる、行動ができるように。避難してくる障害者は数人だと思うので、数人が数日を過ごせるような場所になるといい。
- 使用する設備はなるべく1階に配置してほしい。
- 休日にも貸館していただきたい。

保健・介護

- 現在、切目社教センターで行っている健診（乳幼児・子ども・大人）を、福祉センターでも行えるようにしてもらいたい。
- 大人の健診では健診バスが5台来る。それらが駐車できるように。
- 健診では動線がなるべく絡まないように設定してもらいたい。
- 乳幼児健診のための道具を保管するスペース（倉庫）、脱衣所が欲しい。
- 乳幼児の沐浴が行えるよう、お湯の出るところをお願いしたい。社教センターでは調理室の流しを使っている。
- 洗濯機を置けるスペースが欲しい。（社協の介護用とは別に）
- 雑巾やモップを置ける物入れ。湿気ないものを。
- 雑巾など汚いものを気兼ねなく絞れる流しを。
- シャワー室より浴槽がいい。
- 使用目的：健診（乳幼児・子ども・大人）・ママサポサロン・サロン・母親教室・身体検査・沐浴指導
- あまり大きくない相談室。（妊娠相談等のために）
- 吹き抜けの2階部分手すりは子どもが通過できない配慮を。高めに設定するとか、近接に家具を置かない。
- サロンに置く家具は、ソファ等ではなく手軽に移動できるものにしてもらいたい。
- トイレに子供用便器を設置してほしい。女子トイレの1室が子供用であるとか、男子用・女子用のどこかに小さな小便器を置くとか。
- 医務室が欲しい。ベッド、棚等は備え付け。他室と兼用ではなく専用で。

7. 配置図



8. 平面図

Ver2.3

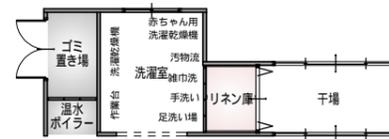
部屋名	面積	㎡
倉庫2.21	44.00	
階段室	3.00	
階段室	3.00	
倉庫2.22	83.50	
合計	133.50	



部屋名	面積	㎡
E V	6.00	
階段室	15.00	
ホール	50.50	
サロン	43.75	
ドリンクバー	1.50	
物入2.3	2.75	
サークル室1	22.50	
サークル室2	22.50	
健康増進室	31.50	
物入2.4	12.25	
会議室1	75.00	
会議室2	57.50	
会議室3	85.00	
倉庫	20.00	
風除室	7.50	
階段室	18.00	
ローカ	48.75	
物入2.6	2.50	
物入2.5	2.50	
和室	27.50	
床の間	5.00	
物入2.7	7.50	
化粧室	6.00	
女子トイレ	15.00	
だれでもトイレ	7.50	
P S	0.50	
男子トイレ	10.50	
化粧室	6.00	
物入2.2	1.00	
物入2.1	1.00	
合計	615.50	

2階 平面図 S:1/200

部屋名	面積	㎡
倉庫21.1	51.00	
階段室	3.00	
倉庫21.2	51.00	
階段室	3.00	
倉庫21.3	16.50	
倉庫21.4	16.50	
倉庫21.5	16.50	
合計	157.50	



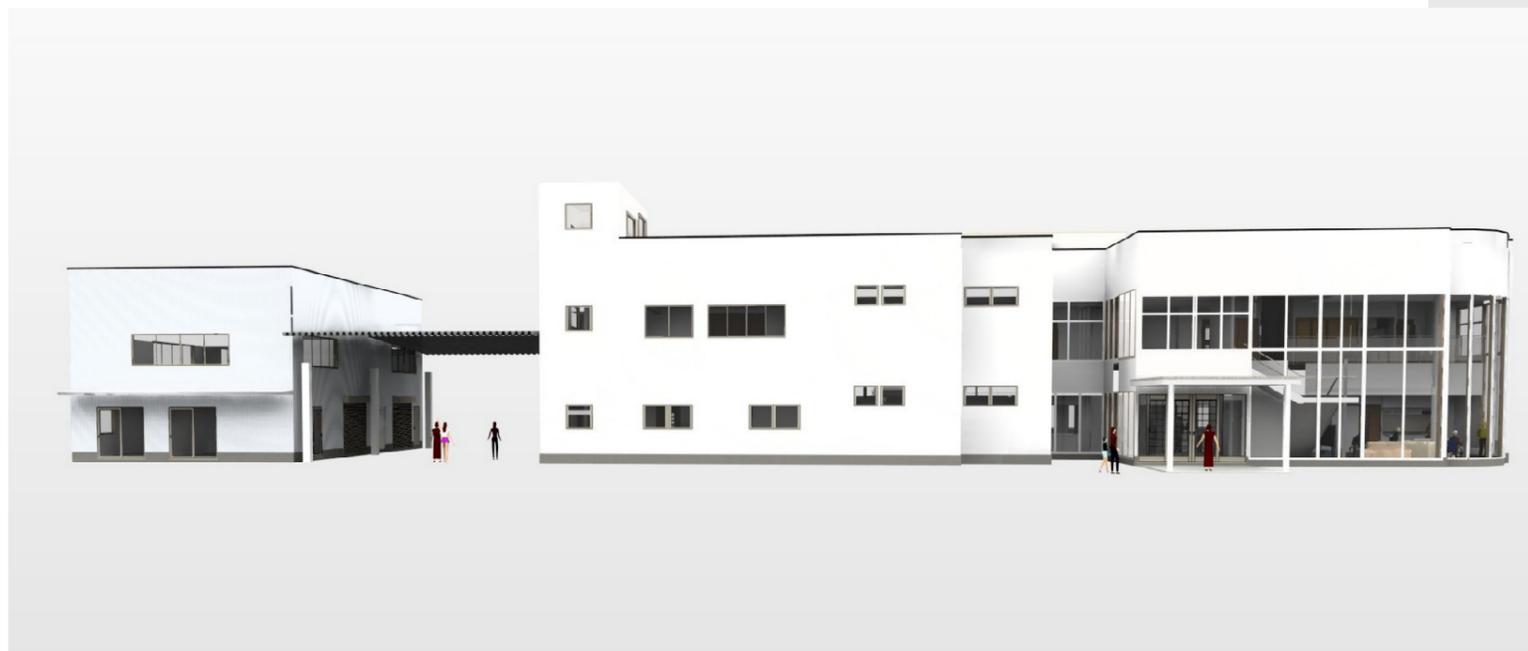
部屋名	面積	㎡
洗濯室	10.50	
リネン庫	3.00	
干場	8.00	
ゴミ置き場	3.79	
温水ボイラー	1.50	
合計	26.79	



部屋名	面積	㎡
風除室	12.00	
ホール	35.00	
展示スペース	6.00	
E V	6.00	
階段室	15.00	
ラウンジ	53.32	
ドリンクコーナー	3.00	
通路	6.00	
相談室1	9.00	
相談室2	22.50	
事務所	58.50	
作業スペース	19.00	
図書スペース	11.00	
ヘルパーステーション	36.00	
通路	12.00	
物入1.3	3.00	
更衣室	4.13	
脱衣室	3.00	
シャワー室	6.00	
授乳室	9.75	
通路	6.75	
物入1.4	2.25	
医務室	22.50	
物入1.5	5.63	
休憩室	36.00	
多目的会議室(防災)	54.00	
風除室	7.50	
階段室	18.00	
ローカ	48.75	
調理室	48.00	
化粧室	6.00	
女子トイレ	15.00	
だれでもトイレ	7.50	
P S	0.50	
男子トイレ	10.50	
化粧室	6.00	
物入1.2	1.00	
物入1.1	1.00	
合計	627.08	

1階 平面図 S:1/200

9 . 完成イメージ図



10. 事業実施スケジュール

事業名 印南町防災福祉拠点整備事業

項目	年月	令和2年度											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基本計画													
事業計画策定												
企画（建設会議）													
プロジェクトチーム		発足											
分科会意見要望吸い上げ		←-----→											
分科会意見要望取り纏め		-----→											
施設配置計画		-----→											
プランニング		-----→											

項目	年月	令和3年度												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
基本計画														
事業計画策定													
企画（建設会議）														
方向性決定		→												
分科会意見要望取り纏め		→												
全体会 要望擦り合わせ		→												
施設配置計画		→												
プランニング		→												
事業費算出 建物		→												
設備・備品		→												
取り纏め		→												
設計関係														
地質調査		← 予算 → 発注												
造成設計		←-----→												
建築設計		←-----→												
各種申請 確認申請等		←-----→												
設備備品取り纏め		-----→												
工事関係														
		-----→ 予算												

項目	年月	令和4年度												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
工事関係														
本体工事		発注 ← 議会承認 →												
造成工事		←-----→												
外構工事		←-----→												
設備備品搬入据え付け		発注 ←-----→ 製作												

11 設計時の検討事項

全体 階高・天井高の検討
大屋根・軒高検討

外部

敷地周囲 困障及び高低差処理、水勾配
インフラ引き込み位置
給水タンク容量及び位置、水圧確保方法（高架水槽？）
防火水槽位置
受電・自家発電機容量及び燃料種類
同上 設置位置
温水器容量・熱源種類及び位置
手洗い・足洗い場、散水栓の検討
外灯・常夜灯

内部

吹き抜けの採否
吹き抜けの暖房ロス
ガラス多用に因る夏場の温室化懸念
冷暖房のシステム選定（電気,GHP）（事務所の独立性確保）
各室床仕様（フリーアクセス、床暖房等）
各室床仕上げ材の検討
各室インフラの確認
各室必要設備確認
幼児用トイレの検討
授乳室の使い勝手検討

